

レジンセメントについて

現在発売されているレジンセメントは、セルフエッチング機能やメタルプライマー機能などの機能性モノマーが含有され、より簡便に接着修復が可能になってきている。しかし、セラミックの接着を補助するようなシランカップリング材は含まれていない。そのため補綴物の被接着面がポーセレンあるいはハイブリッドタイプ硬質レジンの場合には接着作業に先立ってシラン処理を行う必要がある。それにはまず、補綴物の被接着面の新鮮面を露出させ、かつチッピングの恐れのない部分においてはアルミナサンドブラスト処理を施した後に、エッチング剤を用いて清掃し、水洗後、十分に乾燥させる。そして、シランカップリング材を必要な部分（セラミックおよびコンポジットレジン部など）のみに塗布し、メーカーの指示する秒数放置した後、十分に乾燥させる。なお、シランカップリング材は親水性が強く水分と反応しやすいため、この処理後に水分と接触して反応してしまうとレジンセメントとの接着力が著しく低下する。よって、シランカップリング処理された後の被接着面への水分の接触は厳に避けなければならない。

次に、支台歯側についてであるが、支台歯が天然歯である場合、被接着面は清掃され、かつ、除菌されている必要がある。それにはタービンバーを使用して支台歯の被接着面を一層削除する器械的清掃、および薬物（エッチング材や2%クロルヘキシジンなど）による清掃・除菌を行うことが常道であろうと思う。そして、処理した後に水洗後、被接着面を十分に乾燥させる。

また、支台歯にレジンコア処置が施されている場合は、先述した事項に留意し、シランカップリング処理を同部位に施す。メタルコアの場合は、使用するレジンセメント中にメタルプライマー機能が含有されているかどうか添付文書を確認し、必要に応じて、メタルプライマー処理も合わせて行う（補綴物の被接着面がメタルの場合、同様に補綴物側にもメタルプライマー処理を行う）。シランカップリング処理とメタルプライマー処理を続けておこなう際は、その順番がメーカーによって異なるためにメーカーの指示に従わなくてはならない。一般的に、溶剤にはアルコール系とアセトン系があるが、基本的にはアセトン系を使用した後にアルコール系を使用するように心掛ける。これは、アルコール系の後にアセトン系を使用すると、アセトンの作用力が強いためにアルコール系に含有されていた成分が崩壊してしまう可能性があるためである。

そして、接着の際の注意点であるが、セルフエッチング系のレジンセメントを使用する際は、補綴物を口腔内に充填後に、急いで光重合して硬化させずに、硬化までの時間を十分に取るようにして、その中に含まれるセルフエッチング機構やメタルプライミング機構などを発揮させて接着力を高めるようにしている。

 <p>アルミナサンドブラスト処理をしたセラミック</p> <p>Ⓐはサンドブラスト前、Ⓑはサンドブラスト後。 表面積が大きくなるため接着力が向上する。</p>	 <p>シランカップリング処理</p> <p>セラミック部分、特にマージン部分は確実に塗布するように心がける。</p>
---	---